

令和6年度 授業改善推進プラン 図工科

1 課題点

【低学年】

- ① はさみ、のりを出しすぎるなど、思うように使うことができていない。
- ② 作りたい気持ちが高まると、時間になっても切り上げることができていない。
- ③ 道具を洗う際、流しの水を出しすぎるなどルールや決まりを守れないことがある。

【中学年】

- ① 思考・判断・表現の部分で、イメージを広げることが苦手な友達や参考作品を同じようにつくってしまう。
- ② 運動会の思い出など、人間の動きを思い出しながら描くことに自信がなく、苦手意識をもつ児童が多い。

【高学年】

- ① 作品を作り始めるのに時間が掛かる児童がいる。
- ② 絵の具をはじめとした画材を、思うように使いこなせていない児童が見られる。
工作の出来上がりの見通しをもってサイズを切るなどできない児童がいる。

2 授業改善策

【低学年】

- ① のりやはさみなどの活動の時間を多くとり、道具の使い方に慣れさせる。
- ② 見通しを持つために、説明を簡潔に行う。自分の作りたいものや描きたいものを時間内に作れる材料を用意する。
- ③ 授業導入の段階で、図工室にある道具の正しい使い方や、大事に使う意味を児童に分かる言葉で丁寧に説明する。

【中学年】

- ① 絵具や筆、図工で使用する道具の正しい使い方を繰り返し指導する。イメージして、思いついたことが表現できるよう、動画や視覚的に分かりやすい資料を用意する。
- ② 材料や技法、道具の面白さや新鮮な気持ちを生かし、小さな作品からしっかり仕上げる感覚を養う。
人の動きなど細かい動きでも自信をもって取り組めるよう順を追って行う。

【高学年】

- ① 休み時間に図工室で作品を仕上げるなど声を掛け、基礎的な感覚が養えるよう個別に支援する。なるべく多くの分野で力を発揮させることで自信につながるよう、授業内容を工夫する。
- ② 造形遊びや紙工作などの活動で大きさの感覚を体でつかませ、主体的に取り組めるように工夫する。